

第3学年 道德学習指導案

指導者 橋本 知子

- 1 日 時 平成23年10月26日(水) 公開授業Ⅰ
- 2 学年・学級 3年1組 30名
- 3 主題名 「ぼくらのためにありがとう」 内容項目 2-(4)
- 4 ねらい 「ふるさと宮園ビオトープの会」の人たちがビオトープに込めた思いを知った主人公の気持ちを考えることを通して、日頃当たり前と思っていることが多くの人に支えられていることに気づかせ、自分の生活を支えてくれている人々に対し、尊敬と感謝の気持ちを持って接しようとする心情を育てる。
- 5 資料名 「ぼくらのビオトープ」 (自作資料)

6 主題設定の理由

○ 主題観

私たちは、様々な人に支えられ、助けられながら生きている。人々に支えられ助けられて自分の生活が成り立っているということを知ることによって、周りの人に対して、尊敬と感謝の気持ちが生まれてくる。それは、日々の生活、あるいは自分が存在することに対する感謝へと広がり、生命尊重や人間尊重の精神を支えるものとなる。また、相手に対する尊敬と感謝の気持ちを持って、互いに認め合っていくことは、よりよい人間関係を築くためにも不可欠である。

日頃子どもたちがお世話になっている人はたくさんいる。今、自分が幸せに過ごしているのは、多くの人々の支えと恩恵を受けているからであるが、そのことにはなかなか気づきにくい。子どもたちに、日々の生活を支えてくれている人の存在に気づかせ、その行動の意義やその人の願いなどを理解させることにより、尊敬・感謝の心情を育てたいと考え、本主題を設定した。

○ 児童観

本学級の児童は、お世話になった人に対して感謝する気持ちを持って、素直に行動に表すことができる。学級でも、友だちに何かしてもらったら、笑顔で「ありがとう」という言葉を交わしている姿もよくみる。しかし、中には、儀礼的に言っているという段階の児童もいる。

一方、3年生になってから、学校にあるビオトープを利用して、総合的な学習の時間を中心にいろいろな学習を進めてきている。それらの活動は、「ふるさと宮園ビオトープの会」の方が事前準備や畑の世話、日常的な維持活動などを熱心にしてくださることで成り立っている。

児童は、ビオトープでのいろいろな学習活動に大変興味を持っており、「ふるさと宮園ビオトープの会」の方と触れ合いながら意欲的に取り組んでいる。毎回、活動の終わりには、全体で感謝の気持ちを表しているが、ビオトープの維持管理の大変さや「ふるさと宮園ビオトープの会」の方のビオトープや宮園小学校の子どもたちに対する思いにまで思いを馳せて表せる児童は少なく、形式的になりがちである。

そこで、このような時期に、これまでの体験を振り返りながら、主人公の気持ちによりそって考えたり、ぞんぶんに話し合ったりする中で、自分たちの活動が地域の方に支えられていることにあらためて気づかせ、尊敬・感謝の気持ちを持たせたい。そして、この気持ちを実践にうつすことへの意欲づけを図るとともに、さらには自分も郷土を大切にしていこうとする気持ちへと発展させていきたいと考える。

○ 指導観

本資料は、宮園小学校にあるビオトープの出来事をもとに作成した自作資料である。このビオトープは、8年前に保護者や地域から発案され、地域・保護者・学校が一体となって少しずつ作り上げたものである。現在の形になったのは、4年前であるが、今も「ふるさと宮園ビオトープの会」の方が毎週維持管理をしてくださっており、自然が少ない団地である宮園地域において、このビオトープで子どもたちに自然の仕組みを体験させ、命の大切さや他者への思いやりややさしい心が育つことを願って活動しておられる。年間を通じてビオトープで活動することが多い3年生に、地域の方たちの支えにより豊かな体験ができることや子どもたちのことを思って活動されていることに気づかせたいと考え、本資料を作成した。子どもたちにとって、体験を想起しやすく、自分たちのこととして考えやすい資料となっている。

指導に当たっては、ビオトープに対して表面的な良さしか感じていなかった主人公が、地域の方が見えない所で維持管理に励んでいる様子や、ビオトープや子どもたちに対する思いを知ることにより、ビオトープの本当の素晴らしさに気づき、感謝の気持ちを抱いていく気持ちに共感させ、自分の体験と重ね合わせながら、考えさせていきたい。

導入で、ビオトープの良さについて出し合い、中心発問で、その良さを支えて下さっている地域の方の活動や思いを知った主人公の気持ちを「ぞんぶんに話し合う」ことにより、ねらいに迫り、今まで気づけなかった視点からの見方に気づかせ、自分たちを支えてくれている地域の人に対する心からの尊敬・感謝の気持ちを抱かせていきたい。

特に、体験の生かし方、取り入れ方としては、下記の通りとする。

導 入・・・ビオトープの良さを発表することを通して、今までの自分たちのビオトープでの体験を振り返る契機とする。

展開前段・・・場面ごとの主人公の気持ちを共感的に捉えさせるために、「似たような気持ちになったことがあるか。」など補助発問や切り返し発問をし、自分の体験と関わらせて考えさせる。実際に、活動されている様子を写真や映像で示すことにより、その大変さを実感させる。

展開後段・・・「ふるさと宮園ビオトープの会」の人の思いをあらためて聞き、尊敬や感謝の気持ちを確かなものとさせ、今自分が「ふるさと宮園ビオトープの会」の人に伝えたいことをお手紙に書いて、実際に来ていただいている人に読んで伝えさせる。

終 末・・・教師から今後の気持ちの表し方について投げかけ、余韻を持って終わる。

7 言語活動の充実に向けて（「みやその響きあいプラン」の具体的な活用）

① みんなが考えを持つ	中心発問において、「ふるさと宮園ビオトープの会」の方の活動や思いを知った主人公の考えをワークシートに書く時間を十分確保し、自分の考えを整理し、明確にさせる。
② やさしく聞き合う	中心発問において、主人公の気持ちを自分の体験を交えながら考えて発表するのをクラストークでやさしく聞き合わせることで、いろいろな考えに出会わせ、道徳的価値についての理解を図る。
③ ぞんぶんに話し合う	(指導過程に提示)
④ ノートやワークシートにまとめ深める	振り返りにおいて、宮園小オリジナル「心のノート」に、今の自分の思いをお手紙として書かせることにより、自分とのかかわりで道徳的価値をとらえさせる。

8 準備物

短冊・場面絵・写真・ワークシート・宮園小オリジナル「心のノート」

9 総合単元的な道徳学習構想図

総合主題名	ビオトープ大好き 宮園大好き	実施期間	平成 23 年 10 月～11 月
めざす子ども像	自分の生活を支えてくれる人に感謝し、進んで地域の の人と関わり、地域を大切にしようとする子	中心項目 関連項目	2－（４）尊敬・感謝 4－（５）郷土愛 4－（２）勤労奉仕
体験に視点をあてた活動 教科・特別活動・総合他		体験に視点をあてた道徳の時間	
児童の意識の流れ			
①総合的な学習の時間 「ぼくらのビオトープ」 学校にあるビオトープで野菜を育てたり、生き物を観察したりするとともに、ビオトープの歴史や自然について調べて、分かったことを工夫してまとめる。 3－（２）動植物愛護 2－（４）尊敬・感謝		②主題名 「ぼくらのためにありがとう」（本時） 内容項目 2－（４）尊敬・感謝 資料名 「ぼくらのビオトープ」 ねらい ふるさと宮園ビオトープの会」の人たちがビオトープに込めた思いを知った主人公の気持ちを考えることを通して、日頃当たり前と思っていることが多くの人に支えられていることに気づかせ、自分の生活を支えてくれている人々に対し、尊敬と感謝の気持ちを持って接しようとする心情を育てる。	
③ 特別活動 「感しゃの会をしよう」 ビオトープでお世話になった人たちに感謝の気持ちを伝えるために、「感しゃの会」を開く。 2－（４）尊敬・感謝		④主題名 「わたしたちのふるさと」 内容項目 4－（５）郷土愛 資料名 「ぼくのこの町」 ねらい 住んでいる町に対するお父さんの思いがわかってきた主人公の気持ちを考えることを通して、自分の住んでいる地域の良さに気づかせ、地域の人々や生活に親しみ、進んで関わろうとする態度を育てる。	
⑤特別活動 「なかよし発表会」 ビオトープで学習してきた内容について、学習発表会で発表する。 3－（２）動植物愛護 2－（４）尊敬・感謝		⑥主題名 「地域のために」 内容項目 4－（２）勤労奉仕 資料名 「公園ボランティア」 ねらい くじけそうになりながらも、公園ボランティアを続けた主人公の思いを考えることを通して、働くことの大切さに気づかせ、地域のために進んで行動しようとする心情を育てる。	
自分の生活を支えてくれる人に感謝し、進んで地域の人と関わり、地域を大切にしようとする子			

10 指導過程

段階	学習活動	おもな発問と児童の心の動き	指導上の留意点	体験を言葉で生かす指導 ☆体験を引き出す発問
導入	1 資料に関わる体験を引き出す。	○ 宮園小学校のビオトープのすてきなところはどこだと思いますか。 ・たくさんの生き物がいる。 ・川にきれいな水が流れている。 ・畑でいろいろな植物を育てることができる。 ○ 宮園小学校のビオトープが、銀賞を2回受賞したことを知っていますか。	○ 写真などを提示し、イメージしやすくする。 ○ 銀賞受賞について紹介し、資料との関連を図る。	○ 今まで感じてきたビオトープの良さを言葉で表現させる。 ☆ 今までの活動で感じたことを発表しましょう。
展開前段	2 資料を読んで話し合う。	○ たかしは、どんな気持ちでビオトープで活動しているでしょう。 ・虫たちがたくさんいて楽しい。 ・ビオトープがあつてうれしい。 ・もっといろんなことがしたい。 ○ みきちちゃんが、ビオトープをなつかしがっていると聞いて、たかしはどう思ったでしょう。 ・どうして他の学校にはないのかな。 ・ビオトープは宮園小学校の宝物だな。 ◎ おじさんの話を聞いて、ビオトープの体験が一つ一つ頭の中に浮かんでいるたかしは、どんなことを考えているでしょう。	○ 場面絵を提示しながら読み聞かせし、場面の様子が捉えやすいようにする。 ○ 「宮園小学校の宝物」という言葉に着目させる。 ○ 多様な意見が出るようにする。	○ 自分たちのビオトープに対する思いと同じことを確認する。 ☆ たかしと同じ気持ちだね。 ○ 地域の人の活動や思いを知った、たかしの気持ちに共感させる。 ○ 今まで自分たちがしてもらったことを思い起こさせながら発表させたい。 ☆ みんなは知っていたかな。知ってどんな気持ちで

㊦ぞんぶんに話し合う。

多様な意見を出させようで類型化し、自分の考えとさらに比べたり、自分の体験と結びつけたりしながら深め合い、地域の人の活動や思いを知ったたかしの気持ちについて話し合う。

〈子どもの姿〉

日頃当たり前活動できていたのは、地域の人の地道な活動に支えられていたからだということに気づき、地域の人たちに対し尊敬と感謝の気持ちを持つことができる。

・「ふるさと宮園ビオトープの会」の人の活動を初めて知って驚いた。

○ 切り返しや揺さぶりをし

		・ どうしてこんなに大変な作業を続けられるのだろう。 ・ ぼくたちのことを思って活動をしてくれてうれしい。 ・ 知らないところでお世話になっていたのだな。 ・ いろいろな活動ができたのは、「ふるさと宮園ビオトープの会」の人たちのおかげだ。感謝したい。 ・ だれかのためにこんなことができるなんてすごいな。 ○ たかしは、どんな気持ちでビオトープに駆け出したのでしょうか。 ・ もっとビオトープの話が聞きたい。 ・ ぼくたちのことを思ってくれる人がいてうれしい。 ・ 地域の人に感謝の気持ちを伝えたい。 ・ ぼくも一緒に活動してみよう。	ながら、自分たちのことを考えてくれていて地域の人の思いに気づかせる。 ○ 「やっぱり宝物だね。」という言葉に着目させる。	ちになったかな。 ○ 自分だったらどうするか考えさせる。
展 開 後 段	3 ゲストティーチャーの話を聞く。 4 生活を振り返る。	○ 「ふるさと宮園ビオトープの会」の人の話を聞きましょう。 ○ 今「ふるさと宮園ビオトープの会」の方にどんなことを伝えたいですか。実際にお手紙を書いてみましょう。 ・ 苗を植えるときに、畑を耕してくださっていたおかげで、すぐ植えることができました。 ・ 植物の名前が分からない時に、一緒に探してくれてうれしかったです。 ・ 毎週ビオトープの世話をしてくれるおかげで楽しく学習できています。 ・ これからも一生懸命勉強します。 ○ 実際に「ふるさと宮園ビオトープの会」の方に伝えましょう。	○ ビオトープや子どもたちへの思いを語ってもらう。 ○ 宮園小オリジナル「心のノート」に書き込ませる。 ○ 実際にゲストティーチャーに向けて何人かに読ませる。	○ 今までのビオトープでの活動を思い出しながら聞かせる。 ○ 宮園小オリジナル「心のノート」にある写真を見ながら、今までの活動を想起させ、あらためて感謝の気持ちを表せるようにする。

